

茂山千五郎家アイルランド公演

Ireland Meets Japan

—W.B. Yeats, Lafcadio Hearn and *Kyogen*

アイルランドと日本の邂逅

～W.B.イェイツ、ラフカディオ・ハーンと狂言～

【趣旨】

2 人のアイルランドの文学者が 19 世紀から 20 世紀へ移行する頃、日本と出逢い、両国に流れる心や伝統の葛藤を自らのものとして、斬新な作品を作りあげた。一人はアイルランドの国民的詩人・劇作家 W.B.イェイツであり、もう一人はギリシャ出身の母をもち、父の国アイルランドで育ったラフカディオ・ハーン（小泉八雲）である。この公演は、2017 年が日本とアイルランドの外交関係樹立 60 周年となるのを機に、「狂言」という日本の伝統的な演劇表現によって照射することで、改めて両国の基層にある相違と共通性を再認識し、将来へつなぐ試みである。

公演の演目の一つは、イェイツがアイルランドの伝承を元に「狂言」を意識して書き上げたという演劇『猫と月』で、日本の狂言界を代表する茂山千五郎家が、母国アイルランドで初演する。イェイツは終生日本に来ることはなく、『猫と月』も狂言として完成された作品ではなかったが、茂山千五郎家はイェイツ生誕 150 周年の 2015 年、「狂言」としての演出を施し、神戸で世界初演を行った。今回は里帰り公演ともいえ、同時にアイルランドの劇団が、英語による原作のままの『猫と月』を西洋演劇として上演する。このことにより、原作に内在する 2 つの文化的原点を、2 文化の演劇形態により提示し、日愛の文化的相克と共通性を再認識させる。

一方、今回、千五郎家はハーンが「再話」した日本の民間伝承を狂言化し、世界初演する。ハーンは世界を放浪した末に日本に辿り着き、失われんとする民間伝承にアイルランドと通底する響きを聞き取った。それを「再話」という手法によって自らの英語作品とし、普遍の域に高めた。ハーンの世界を狂言という伝統の舞台に乗せることで、日本の民話を描きつつも、その民話を見つめるハーンの視点とその奥にあるアイルランドの心を映し出し、2 文化の個性と調和の姿を示す。

世界が本格的なグローバル化の緒に就いた 1 世紀以上前、アイルランドと日本という異質な文化の邂逅により産み出された芸術作品が、伝統と現代性のある狂言という手法に出逢うことによって、新たな息吹を吹き込まれ、世界に発信されることとなる。日本の古典芸能、狂言の新たな可能性が模索されると同時に、日本とアイルランドの基層にある異質性と類似性を改めて提示したうえで、未来へ目を向けることは、大変意義深く今後の展開も期待できる。

(なお、本事業は平成 28 年 9 月の十四世茂山千五郎襲名後、初の海外公演となる。また『猫

と月』には京都大学名誉教授佐野哲郎先生の日本語訳が用いられる。)

主催：アイルランド・日本外交関係樹立 60 周年記念事業

茂山千五郎家狂言アイルランド公演実行委員会（事業責任者：真鍋晶子/滋賀大学教授）

後援(予定)：在アイルランド日本国大使館、駐日アイルランド大使館、滋賀大学、

日本アイルランド協会、日本イエイツ協会、国際アイルランド文学協会日本支部、山陰日本アイルランド協会、日本ケルト協会、彦根市、松江市、京都市、京都府、ブルーレインコート・シアター・カンパニー他

特別協力：茂山千五郎家

スケジュール：

7月25日(木) Dublin ～Smock Alley Theatre

アイルランドの首都、文化の中心のダブリンの中心部に位置する、ダブリンで最も古く（1662年創立）伝統ある劇場。古典から最新の作品まで、伝統と革新が生きる劇場。

7月27日(木) Sligo ～Performance Space(Blue Raincoat Theatre Company)

イエイツはダブリン生まれだが、幼少時は母方の祖父母の家があるアイルランド西北部の中心地スライゴで過ごした。心の故郷スライゴの周辺の文化、自然、そして人々が語る妖精譚、異界の話がイエイツの心深くに流れ続ける。ここスライゴにおいて 1958 年以来毎夏、イエイツ・サマー・スクールが開かれ、国際的なイエイツ研究の中核を担い、専門家だけに対してだけでなくイエイツに興味のある人々にも貢献している。それと同時に、ブルーレインコート・シアター・カンパニーを率いるニアル・ヘンリーが、6 年前からトレッド・ソフトリイ・フェスティバルを開き、スライゴを訪れる人々が参加できる、音楽、演劇、展覧会、イエイツカントリーへのツアーを主催している。そのフェスティヴァルに、茂山千五郎家が招聘を受けたのである。

7月29日(土) Waterford ～Gaterlane Arts Centre

劇場から 13 キロ余り離れたトラモアにはハーンが幼い頃滞在した家が存在し、また、2015 年、小泉八雲庭園が開園。それは、海外によくある日本庭園ではなく、八雲の地球 3 分の 2 周におよぶ片道切符の旅の人生と彼の精神性を、ひとつひとつに物語をもつ 9 つの庭で表現するユニークなものである。また、2015 年 10 月日本から 20 名余りが松江市長からの寄贈であるラフカディオ・ハーンのリリーフを持参した際には、市長や子どもたち初め市民による心づくしの歓迎をうけた。同じ時に俳優佐野史郎、音楽家山本恭司のライフワーク「小泉八雲朗読の夕べ」が今回の会場 Garter Lane Arts Center で開かれ大好評を博した。このようにハーンへの受容準備が整っている地であり、今回の新作狂言の公演により、日愛文化交流が将来に継続することが望まれる。

【茂山千五郎について】

『猫と月』の中心登場人物を演じるのは、2016 年 9 月日本の狂言界を代表する大蔵流狂言茂山千五郎家当主を襲名した茂山千五郎であり、今脂がのりきった芸を披露する。相手をするのは弟の茂山茂でふたりの息の合い具合は絶妙である。今回は茂山千五郎襲名後初めての海外公演という特別な機会である。

(文責：真鍋晶子)

実行委員会の銀行口座を開きました。公演を成立させるためには、未だに資金的にかなり
厳しい状況です。みなさま方のご支援をいただければ、非常にありがたく存じます。

滋賀中央信用金庫

普通預金

店番 001 彦根営業部

口座番号 0655141

茂山狂言アイルランド公演実行委員会（委員長 真鍋晶子）

よろしく願いいたします。

真鍋晶子